教育原理(5)

八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 令和4年5月9・16日(月)

- 1.「家庭と連携する」ということ
- 1.法律における定義と実際
- (1)保護者と子育てを取り巻く状況

多種多様な悩みを抱える保護者

なぜ悩みを抱えるのか?

- (1)保護者と子育てを取り巻く状況 <子育てにおける孤立>
- 。核家族化
- ・地域での繋がりの希薄化(都市部)
- · 子どもの数の低下による子育て世帯の減少(地方部)



子育てにおいて協力する文化の減少

- (1)保護者と子育てを取り巻く状況 <子育て情報の多さ、複雑さ>
- ・様々なメディアに溢れる情報
- . 正しい情報を取捨選択することの難しさ
- . 固定化された情報に固執したい保護者



情報に振り回され、不安に陥る

保育者としてどう支えるか?

- ・保護者に対する保育に関する指導を行う(児 童福祉法)
- ・家庭や地域社会と協力して、(中略)教育活動のさらなる充実を図っていく。(幼稚園教育要領)
- →正しい答えを伝えるよりも、「一緒に考える」というスタンスの方が、保護者は安心する。

- 1.法律における定義と実際
- (2)教育基本法に位置付けられた家庭教育

教育基本法第10条

父母その他の保護者は、<u>子の教育について第一義的責任を有す</u>るものであって、<u>生活のために必要な習慣</u>を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、<u>保</u> 護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の<u>家庭教育を支援</u> するために必要な施策を講ずるよう務めなければならない。

保育者としてどう支えるか?PART2

- 家庭教育をサポートするという意識~園の教育だけで完結させるものではない。
- →保護者との連携協力が必須要件である。

- 子育てに関する学習の機会や情報の提供
- →園全体で取り組むことが求められる。

- 2.家庭との連携の実際
- (1)園の教育を発信Part1「学級便り」

保護者が子どもの育ちについての理解を深める、有効な手段の一つである。

- →幼児期の学びについて、また教育の価値についても積極的に伝えていく必要がある。
- Q. 教科書P53のエピソード(1)、リョウタくんの姿にはどのような教育的価値があるでしょうか?

- 2.家庭との連携の実際
- (2)園の教育を発信Part2「保育ドキュメンテーション」

「保育ドキュメンテーション」って何?

写真を使って、文章や言葉ではうまく伝わらない学びと育ちの 物語を「見える化」していくもの。

保育のねらいやその経過、子どもに対しての気付き、保育者のこれからの関わりや見通しを表示し構成するもの。

→幼児期の遊びや生活における教育的価値を視覚化したもの。

- 2.家庭との連携の実際
- (2)園の教育を発信Part2「保育ドキュメンテーション

「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である」ということを、どのように工夫して、家庭に伝えていくかが園に求められている。

→園の教育について家庭と共通理解することが、子 どもたちの充実した育ちに繋がると考える。

11.「地域・社会と連携する」ということ

1.なぜ、地域・社会との連携が求められるのか ブロンフェンブレンナーは...

人間の発達は、

- 多様な役割を占めている人々との相互作用を通して促進される。
- 絶えず広がる役割のレパートリーに参加することによって促進される。

具体的には...

11.「地域・社会と連携する」ということ

1.なぜ、地域・社会との連携が求められるのか

社会全体の中の大人の役割に生徒を触れさせること。

学校という行動場面の中に様々な大人たちを導入すること。

外部世界の中の活動に子どもたちを連れ出すこと。

などによって発達が可能になる。

11.「地域・社会と連携する」ということ

- 1.なぜ、地域・社会との連携が求められるのか 門脇厚司は...子どもの社会力の育成について
- 他者との相互行為が何より大事であり、地域社会の教育力が最も適している。

「社会力」って?

社会を作り、作った社会を運営しつつ、その社会を絶えず作り変えていくために必要な資質や能力。

- 11.「地域・社会と連携する」ということ
- 2.地域や社会へ関わっていく力

保育者が、自分の園のある地域をどのように 捉え、その地域の特性を保育にどう取り入れて いくか?

今日のエクササイズで出した情報を、保育に取り入れるとしたら、どのような方法が考えられるか?

→保育者の独自性が問われる。

111.連携によって育まれるもの

- 1.連携のポイントとしての互恵性
- <連携することで得られる恵(メリット)>

保護者と保育者、地域と園、子どもと大人などのそれぞれにメリットがあるということ。

- →一過性ではなく、継続した連携が実現できる。
- →それぞれの恵みを確認しながら進めることが求められる。

111.連携によって育まれるもの

2.子どもたちに育つもの

人と関わる楽しさ、嬉しさ

人と関わる難しさ

など、直接経験することで得られる学びがある。

→だからこそ、家庭や地域との連携が求められる。

参考文献

シリーズ知のゆりかご「いまがわかる教育原理」

第4章 人間形成と家庭・地域・社会

西本望編 2018年 株式会社みらい